

金型製作現場の安全意識を高める 「KYT」のススメ

(株)安全教育センター 角田 淳*

金型製作にかかわる方であれば、その過程において多くの危険が伴うことは、深く理解されているであろう。工作機械や放電加工機での加工、またクレーンでの重量物の運搬などは一歩間違えれば大きな事故や労働災害になる。事故を防ぐためには、危険への理解を深め、発生させないための対策を行わなければならない。事故防止のための対策の一つとして、「危険予知トレーニング」(以下、KYT)がある。本稿では、金型製作現場でのKYTの活用について解説していく。

金型製作ではさまざまな工作機械を使用する。旋盤のような回転する機械では、手や体の一部が回転部に巻き込まれるという事故が発生している。機械を取り扱う際には、可動部に接触することは厳禁である。また、放電加工機では、高電圧を使用するため常に感電の危険がある。さらに、重量物である金型はクレーンなどで運搬することになるが、重心がとれていないことによって金型がずれ込み、ワイヤから外れてしまった結果、落下する危険がある。

*Atsushi Kakuda : 代表取締役
〒980-0012 仙台市青葉区錦町 1-10-11
TEL(022)267-4207

これらの危険については、熟練した作業であれば経験上の危険として理解しているだろうが、経験の浅い作業員まで理解が及んでいるとは限らない。そのため、危険についての情報の共有が必要である。作業員自身が危険について考え、対策を検討する方法がKYTである。

KYTの目的と効果

KYTとは、危険(K)を予知(Y)するトレーニング(T)のことである。予知とあるので、KYTは作業前に行う。今から行う作業に潜む危険を把握して、その危険への対応策を考えることで、事故や労働災害の発生を未然に防ぐことを目的とした活動である(図1)。KYTでは、作業員の自主的なかわりが欠かせない。

KYTの効果として、次のことが期待できる。

- ① 危険に対する感受性が高まる。
- ② 危険パターンの学びとなり、未熟練者への安全教育となる。
- ③ 熟練者にとっては、見落とす危険に対する再認識を促す。
- ④ ヒューマンエラーを防止する。

近年は人手不足などの問題もあり、経験の浅い作業員も増えてきている。未熟練者の危険に対する無知は、最大のリスクである。KYTは、経験者から危険パターンを伝えることで教育にもなるのである。

KYTの進め方

ここではKYTの進め方として、「グループKYT」と「現地KYT(1人KYT)」を紹介したい(図2)。

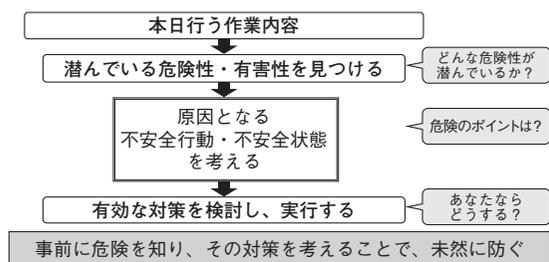


図1 KYTとは